



# CHAPTER 13

## Cisco TAC に送信するデータの収集

問題を迅速に解決するためには、TAC ケースのオープン時にトラブルシューティング情報とログを前もって添付しておくことが重要です。この章では、TAC ケースに添付するトラブルシューティング情報を収集するときの推奨手順について説明します。Cisco TAC エンジニアは、追加のデータの提出を依頼することがあります。次の作業を行っておけば、エンジニアにデータが提供されるのでエンジニアはすぐに調査を開始できます。これにより、問題解決にかかる時間を短縮できる可能性があります。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「[Show Tech-Support 情報の収集](#)」
- 「[コア ファイルの確認と収集](#)」

## Show Tech-Support 情報の収集

### 導入 : Cisco NX-OS Release 4.0(1)

**show tech-support** コマンドは、問題の可能性のある事象を診断したり、Cisco TAC ケースに添付する情報を収集するときに役立ちます。**show tech-support** の内容は、通常、非常にサイズが大きく、サイズはシステムを起動していた時間によって異なります。**show tech-support** コマンドでは、**hsrp**、**ospf** などの機能オプションをサポートしています。これは、トラブルシューティングするときに特定の機能に関する情報だけを収集する場合に便利です。

特定の機能に対して **show tech-support** を実行すると、デフォルトでは詳細情報が収集されます。**brief** オプションを指定して、機能に関して収集するデータを少なくすることができます。ただし、このオプションの使用は、通常は推奨しません。すべての機能に対して **show tech-support** を実行するときに、追加のデータを収集する必要がある場合は、**details** オプションを指定する必要があります。

最初の例では、**space-optimized** オプションを使用してすべての機能に関する詳細情報を取得します。2 番目の例では、**ospf** に関する詳細情報を取得し、その情報をフラッシュ (bootflash:) 内のファイルにリダイレクトします。

```
n7000# show tech-support details space-optimized
```

```
n7000# show tech-support ospf > show-tech-ospf
```

## TAC-PAC の生成

### 導入 : Cisco NX-OS Release 4.0(1)

TAC ケースのオープン時には必ず、**tac-pac** を生成してそのファイルを添付します。こうすることで、Cisco TAC エンジニアは、**show tech-support** の出力を依頼しなくても、問題に関する情報を入手できます。**tac-pac** では、役立つ情報が収集され、その情報は圧縮ファイルに保存されます。このため、圧縮ファイルにリダイレクトする **show tech-support** よりも簡単に転送できます。次の例では、圧縮ファイルをフラッシュ (Slot0:) に保存します。

```
n7000# tac-pac slot0:tac-pac-for-tac
```

## 複数のファイルのアーカイブまたは圧縮

### 導入 : Cisco NX-OS Release 4.0(1)

リモートの宛先にデータを保存するときに複数のファイルをアーカイブおよび圧縮して、転送処理を簡単にすることができます。

```
n7000# show tech hsrp > hsrp-detail.txt
n7000# show tech ospf > ospf-detail.txt

n7000# dir bootflash: | grep detail
 9855855      Nov 02 21:07:40 2010  hsrp-detail.txt
   2703       Nov 02 21:08:11 2010  ospf-detail.txt

n7000# tar create bootflash:tac-info gz-compress bootflash:hsrp-detail.txt
bootflash:ospf-detail.txt

n7000# dir bootflash:tac-info.tar.gz
 860311      Nov 02 21:12:51 2010  tac-info.tar.gz
```

## コア ファイルの確認と収集

### 導入 : Cisco NX-OS Release 4.0(1)

プロセスで予期しない再起動またはエラーが発生した場合、Cisco NX-OS によって、イベントに関する詳細情報を含んだコア ファイルが保存されます。コア ファイルの内容は、Cisco TAC エンジニアとソフトウェア開発者がプロセスのエラーを診断するときに役立ちます。コア ファイルはコピーして、TAC ケースに添付する必要があります。次のコマンドでは、コア ファイルがあるかどうかを確認し、リモートの宛先にコピーします。この例では SCP を使用していますが、SFTP、FTP、TFTP などの他のトランスポートプロトコルも使用できます。

```
n7000# show cores

VDC No Module-num      Process-name      PID      Core-create-time
-----
1   8      acltcam          285      Oct 27 09:32

n7000# copy core://8/285 scp://username@x.x.x.x/acltcam-core
```